

新座市指定管理者制度導入施設管理状況評価シート（平成30年度分）

【施設の概要】（所管部記入）

施設名	児童センター（新座市児童センター、福祉の里児童センター）			
所在地	新座市本多1-3-10、新座市新塚1-4-5	所管部署	こども未来部 こども支援課	
制度導入年度	平成22年度	選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 / <input type="checkbox"/> 指名	
指定管理者	名称	特定非営利活動法人新座子育てネットワーク	所在地	新座市菅沢1-4-5
	指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日（5年間）		

【事業概要】（指定管理者記入）

事業概要	<p>子どもの健全育成のため、遊び・学び・ふれ合いの三つの柱を基本に、0歳から18歳までの子どもの心身の発達に応じたきめ細かな事業を計画し、実施した。児童センターが有する資源と特色をいかし、事業展開を行った。年間を通して季節性に配慮するとともに事業目的を明確にし、実施後は評価と見直しを合わせて行った。事業は①子どもの健全育成事業（子どもの遊びと学び事業（全学年、小学生、乳幼児の対象別））、②相談事業、③子ども参画事業、④中高生の居場所事業、⑤要支援児童事業、⑥親支援事業（母親・父親）⑦地域連携・異世代交流事業、⑧情報提供事業、⑨運営協議会等の9分野にわたり、平成30年度は2館合計で133事業、開催数2,732回、延べ参加者数42,580人となった。また来館者数は2館合わせて113,628人であった。</p>		
	<p>※ 運営において創意工夫した点や指定管理者の提案による新たな取組等を記載</p>		

特筆事項	<p>平成30年度も新座市児童センターと福祉の里児童センターの2館で、効率的な運営を図るため、情報の共有や事業連携、職員研修の強化に努めた。新たな指定管理期間の初年度であることを踏まえ、利用者のニーズや状況に合わせ、また利用者にとって分かりやすいよう、事業の見直しや統廃合を行った。その結果、新座市児童センターでは事業数は減少したが、事業実施数・参加者数ともに増加した。</p> <p>近隣小学校の放課後の居場所づくり事業や、乳幼児親子対象のサービスや遊び場の増加など、地域の状況の変化を受け、福祉の里児童センターでは夏休みを中心に利用者数が減少したが、児童センター職員や指定管理団体全体で対策を講じ取り組んだ結果、3月には前年度並みの利用者数に回復した。</p> <p>●平成30年度は、両館共催での新たな事業を展開した。児童センターから離れた地域に職員が出向き、様々な遊びを実施する「どこでも児童館」は、外遊びや子育てグッズ交換会、ミニ運動会、おまつり広場を開催し、489人の参加があった。</p> <p>また、児童センターを拠点とした、子どもの健全育成に関わるボランティアの養成・活動コーディネートをを行い、児童センターだけでなく地域全体で活躍できる人材を育て「まちぐるみ子ども応援団」を組織した。活動人数は、新座市児童センターで延べ551人、福祉の里児童センターで延べ236人となった。</p> <p>子どもたちの放課後の新たな居場所の提供を目指し、下校途中にランドセルのまま児童センターを利用できる「ランドセル来館」は、実施に向けて、こども支援課や教育委員会と協議を重ね、より安心・安全な体制の構築を進めている。</p> <p>●両館共に、昨年度までの実施を踏まえ、より充実した事業展開を図るため、新しい事業を実施した。新座市児童センターでは、放課後等デイサービス利用の障がいのある子どもたちが声を出しても周囲に気兼ねなくプラネタリウムを鑑賞できる「デイ・プラネタリウム」や、小学生がプラネタリウムのプログラムを作り来館者に発表する「星のスタジオ」を実施し、新たなプラネタリウムの活用につながった。「星のスタジオ」等でも協力を得たボランティア団体「新座星空クラブ」は新座市児童センターが事務局を担っており、活動のサポートや事業の広報などを強化したところ、平成30年度には小学生のメンバーが増え、活動が活性化した。福祉の里児童センターでは、小学生以上を対象に、月ごとにテーマを設けて工作を楽しむ「クラフトタイム」を実施し、610人の参加があった。また、これまでも実施していた「親子くらぶ」の実施スケジュールを見直し、同学年の親子が毎月集える日程に変更したところ、リピーター同士のつながりを促進し、孤立しがちな母親の育児不安を軽減することもできた。</p> <p>●「中高生の居場所としての児童センター」は地域に定着し、平成30年度は2館合計で7,410人の中高生が利用し、昨年度の7,322人から88人増加した。また小学生時代から児童センターを利用していた子どもたちが高校生になっても継続利用しており、平成30年度の高校生の利用は延べ2,034人で、中高生利用者の23.7%となった。</p> <p>新座市児童センターでは、お茶を飲みながら中高生が交流する「中高生のきまぐれカフェ」を実施し、ボードゲームや卓球大会、クリスマスパーティーなどを通して中高生同士が繋がる機会を作った。福祉の里児童センターでも、17時を目指して来館する中高生が、卓球やパソコン、ゲームに夢中になったり、漫画を読む、職員と話す、仲間同士でダンスの練習をするなど、思い思いに過ごせる中高生タイムが定着した。</p> <p>●障がいがある子どもの就学やデイサービスについて保護者が学び交流する事業を継続して実施した。新座市児童センターでは、ゆっくり育つ子どもと保護者の交流会「ポレポレくらぶ」で初のファミリー・ギターコンサートを開催し、親子で音楽を楽しみ実際に楽器に触れるなど、障害のある子どもと保護者の体験の機会を提供した。福祉の里児童センターでは、専門家と当事者を対象とし、グループ相談や情報交換ができる「ピアサロン」、障がいの有無に関わらず、いろいろな立場の人が集まり、共生について考える「サラダボウル」を行い、多様性について考える機会となった。</p> <p>●平成27年度から取り組みを始めた子どもの貧困対策事業は、生活困窮家庭の子どもたちと職員とで一緒に食事を作り、食べる「ほっこりごはん」を両館合わせて6回実施した。新座市児童センターでは、新座市商工会青年部や彩の国子ども・若者支援ネットワーク、ボランティア、フードバンクや近隣農家など様々な団体や地域と連携・協力し「ほっこりごはん」を実施し、幼児から中高生まで幅広い子どもが皆で食事を作り食べることを楽しんだ。福祉の里児童センターでは、栄緑道での外遊び「里のソトブレ!スペシャル」を貧困対策事業とし、誰でも参加できる煮炊きの場に対象となる子どもたちが気軽に参加できるような声かけを行い、日常的に孤食となっている子どもの参加もあった。地域で子どもの貧困について考える「新座ほっこりネットワーク」は3回目の実施となった。子ども食堂を運営する団体や、貧困対策にかかわる団体、新座市、市議会議員など、様々な参加者がワークショップを通して意見交換を行い、課題を共有し、今後の活動を考えるネットワークの構築を図った。</p>		
------	---	--	--

【総合評価】

指定管理者の自己評価

総合評価	S	<input type="checkbox"/>	優良	項目別評価総括が全てA以上であり、Sが二つ以上である。
	A	<input checked="" type="checkbox"/>	適正	項目別評価総括が全てA以上である（上記以外）。
	B	<input type="checkbox"/>	課題あり	項目別評価総括にBが含まれている。
評価内容	<p>児童センターの設置目的を理解し、利用サービスの向上、組織及び施設の管理、経費の取扱い等に工夫しながら適切に、誠実に取り組んだ。さらに利用者やボランティアからの要望・提案にも柔軟に対応し、計画段階にはなかった新しい事業も創意工夫のもと実施した。</p>			
改善策	<p>※ 評価Bの場合のみ記入</p>			

市の評価

総合評価	S	<input type="checkbox"/>	優良	項目別評価総括が全てA以上であり、Sが二つ以上である。
	A	<input checked="" type="checkbox"/>	適正	項目別評価総括が全てA以上である（上記以外）。
	B	<input type="checkbox"/>	課題あり	項目別評価総括にBが含まれている。
評価内容	<p>人材育成や新規事業へ積極的に取り組むなど、サービス向上のために努力しており、高く評価できる。地域との連携について指摘したが、学校との連携は児童・生徒へ対応する上で欠かせないものであるため、情報共有など連携を密にしていきたい。</p>			

【市の評価を受けた今後の取組や改善策等】（指定管理者記入）

地域や学校との連携について、引き続き委員会等に出席しながら信頼関係・連携を深めていくとともに、市内の協議体に参加し地域住民と直接かわりながら、ともに支え合う連携体制を築いていくよう努める。また、積極的に学校に足を運ぶ、連絡を取るなど関係づくりに努め、児童センターと学校で情報共有を図り連携を密にしながら、児童の気持ちに配慮しつつ適切に対応する。

【過年度の評価結果まとめ】（所管部記入）

評価区分	30年度 (1年目)	元年度 (2年目)	2年度 (3年目)	3年度 (4年目)	4年度 (5年目)
指定管理者の自己評価	A				
市の評価	A				